

| | |
|--------------|--|
| 開催地名：香川県宇多津町 | |
| 開催日時 | 令和2年12月6日（日） 9：30～11：00 |
| 開催場所 | 宇多津町保健センター |
| 語り部 | 草 貴子（宮城県仙台市） |
| 参加者 | 自主防災会、防災リーダー、一般町民 約50名 |
| 開催経緯 | <p>南海トラフ地震の発生確率が今年になって1ランク上昇して70～80%となったが、香川県においては依然として災害に対する意識は低い。また、自主防災会の結成率は高い方であるが、有事の時には行政がすべて対応してくれるという意識が高く、自主防災組織によって取り組みに温度差があることが懸念されていることから、防災意識の向上を図るために語り部講演会を実施することとする。</p> |
| 内容 | <p>（1）はじめに</p> <p>今年は新型コロナウイルス感染症の広がりなど、様々なことが日本を、世界を脅かしている。そして、収束の兆しが見えず、不安な日々を追い打ちをかけるように、熊本県をはじめとして全国各地で豪雨による自然災害が発生している。災害や事件が起こると、震度はどのくらいなのか、何軒の家が被害を受けたのか、何人の方が避難し、そして亡くなったのか等々、数字を通して被害状況を見てしまいがちだが、災害規模の大小には関係なく、自分の生まれ育った街や集落、そして家や大切な人を失うことはとても悲しいものだ。</p> <p>私が町内会を設立し、防災に力を入れているのも、そんな経験があったからである。そして、これから生きていく中で私が出来ること、しなくてはならないこととは、おこがましいとは思いますが、こうして自分の体験をお話することで皆様に「防災」や「減災」について考えるきっかけを作ることだと思っている。</p> <p>（2）東日本大震災を受けて</p> <p>3月11日、集会所を開けると女性と子どもたち100人が避難してきた。大半は町内会未加入のマンションの住民であったが、皆受け入れた。避難者の中でリーダー、副リーダーを決め、皆の前で紹介し、指示に従うように話した。泉区は内陸部で津波の被害もなかったため、避難所運営は結局2日間だけであった。そのときに学んだことを、そのあとの町内会活動に生かしている。</p> <p>活動していく中で、町内会に入会していないマンションの方々（通勤族の若い家庭が多い）をどうするかという問題があった。東日本大震災は平日の午後、仕事を持つ人は職場にいる時間帯に発生した災害だったことを考慮し、未就学児を持つ若い母子を対象に、茶話会など子育て支援活動を週1回、集会所を利用してスタートした。また、減災をめざし、方言を使った防災かるたを小学校や児童館、社会福祉協議会に常備し、定期的なイベント等を開催している。</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>さらに、地域防災支援組織の実情として、理念のみでは行動が伴わないことや、情報機能がマヒしていたこと等の反省をもとに、市名坂小学校校区に新たな枠組みとして、総務班、情報広報班、救援班、食料物資班、衛生班、女性コーディネーターの6つの班構成からなる避難所運営委員会を設立した。</p> <p>万一の災害時に、地域住民は何をするべきなのかという認識を持つことが最も重要である。私自身、町内会と校区の避難所の事務局長を兼任しているが、災害時の対応は町内会役員が役割分担を決めて、自主防災組織としての手順等や、必要な情報は集会所に貼りだしている。内容としては、役員たちも家庭第一と考えること、避難所での対処、対応についてはあくまでもボランティアであり、過度な重荷は背負わないこと、自分たちの首を絞めてしまうことに繋がることから、あまりに細かな指示や規則は作らず、臨機応変に采配していくことを記載している。</p> <p>また、物質的な援助だけでなく、メンタル的な部分もケアできる体制を目指している。さらに、地域の顔がよく見えることや気軽に声掛けできる雰囲気を考慮し、女性ならではの視点を活かして活動するために、女性コーディネーターを設置した。女性コーディネーターは、避難者の悩みや声を聞き出して、対応やアドバイスを行う。毎日の食事も大切であるが、排泄をはじめとする衛生的な問題について、女性ならではの細やかな配慮で対応していくことが期待されている。避難所運営委員会には、町内会の会長や副会長等の役職を持った人が入っているが、女性コーディネーターはや役職にとらわれず、趣旨に共鳴してくれた方や東日本大震災の時に活躍した方々がメンバーとなっている。</p> <p>最後になるが、いかなる時に被災しても、自分や仲間を信じて、自分の役目をきちんと果たして、地域を共に歩んでいっていただきたい。地域防災の大事なことは、自分達の特性を考えて、オリジナリティーのある身の丈にあったものを実践していくことだと思う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
| 開催地より | <p>東日本大震災における体験談と、自主防災組織としての活動状況について、体験談を基にとても分かりやすくお話いただいた。女性ならではの心配りや特性を生かした活動はとても参考になった。</p> |